



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三七〇号〕

立夏りっか

五月五日

秋篠宮殿下の神宮ご参拝

秋篠宮殿下妃殿下が四月二十一日、伊勢神宮をご参拝になりました。令和二年に立皇嗣りつこうしの礼を終えられたことをご奉告されるためです。

両殿下は宿泊された内宮齋館さいかんでん行在所から朝、お出ましになり、外宮、内宮の順番に参拝なさいました。今回は、秋篠宮殿下はモーニングコートにハットをお持ちとなり、紀子妃殿下はパールホワイトの参拝服をお召しになって参拝でした。まず外宮では参道をゆっくりとお進みになり、参拝を済ませられると、ポツリポツリと雨粒が落ち始めました。その後は本降りになり、内宮参拝は雨の中になるのだろうかと危惧していたところ、両殿下の参拝のお時間になると、雨が上がり、傘をさすこともありませんでした。しばらくするとまた雨は降りだし、我々取材陣は結構濡れた次第です。

皇室方の神宮参拝の折には、参拝時に限り雨が上がる場合があります。そうした現象を「皇室マジック」と呼んでいるのですが、今回もまさしく奇跡的なことを体験しました。

それにしても、雨に洗われた参道、内宮を取り巻く新緑の神路山かみじやまの美しいことに目を見張りました。みずみずしい山の緑は眺めているだけで、心が洗われるようです。

秋篠宮殿下が伊勢神宮に参拝なさるのは今回が十六回目、妃殿下は九回目となります。その日程を振り返ってみると、この四月下旬の時期は一度だけでした。今回は感染防止を徹底されて、異例の車移動をとられました。長時間の移動でお疲れのところ、この美しい新緑の神域に心を安らかにされたのではないかと思います。

季節は、生命力にあふれる初夏へ。神路山も新緑から若葉へと、緑は鮮やかに、濃くなっています。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『風の市』

春から夏へ移り変わる頃、時折吹く風に青葉の匂いを感じます。
伊勢神宮では、風の神様に五穀豊穡をお祈りする「風日祈祭(かざひのみさい)」が5月14日に執り行われます。これに合わせ、おかげ横丁では、伊勢の爽やかな風を感じていただく「風の市」を開催いたします。

と き／5月14日(土)～22日(日) 10:00～17:00

ところ／おかげ横丁一帯

● 風鈴の市

再生ガラスを使った風鈴や、音色がきれいな明珍火箸風鈴など、さまざまな風鈴を展示販売いたします。

お気に入りを見つけ涼しげな音色をお楽しみください。

ところ／特設屋台

● 企画展「和風と幟旗の世界」

江戸時代、子どもの成長を願う儀礼として凧あげと幟旗がありました。

家紋等を入れた色鮮やかな幟旗で、家に男児が生まれたことを神様に伝え、武者絵や金太郎など勇ましい図柄が描かれた凧を高々とあげることで、子どもの成長を願いました。

今回は、浮世絵師 歌川国芳の流れをくみ、晩年に東京都台東区の無形文化財にも指定され、世界的にも知られる橋本禎造(はしもとていぞう)氏の江戸凧と、江戸から明治期の貴重な幟旗を展示紹介いたします。

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料 金／入場無料

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、内容の一部または全体を中止する場合があります。

五十鈴塾

○『伊勢志摩の民俗信仰とオイヤレ』

オイヤレとは「追い遣れ」、すなわち追放という意味です。

天照大神を困らせた須佐之男命が高天原から神ヤライされた神話は有名ですが、中国・四国地方には子育てを表すコヤライという言葉があり、子の親離れ、親の子離れの「遣らう」難しさを示していると解されています。

「追放」とは何か、伊勢志摩地方で行われるオイヤレ・オヤレ行事の由縁から考えてみたいと思います。

と き／5月20日(金) 13:30～15:00

講 師／櫻井 治男(皇學館大学名誉教授)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右玉舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

す
菓つばめ

今年も軒先に燕が巣を設ける季節になりました。黄色のくちばしを広げ、親燕の帰りを待つ赤ちゃん燕。そんな風景を、お菓子のかたちに写し取りました。菓は道明寺と黒糖羊羹。可愛いくちばしはレモンです。

じんぐう ぼら
神宮の薔薇

神宮会館が建つ丘は、雪の如く咲く花に例えて「如雪園」と呼ばれていました。今では150種450株の花々が美しい「神宮ぼら園」となっています。葛寒天を花びらにし、白あんを包んだぼらの姿をお楽しみ下さい。

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほりに咲くヒトツバタゴの木。別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストが見事です。白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。